



コロナダル市で7月開催の州創立記念祭では、チボリやビラーンの踊りが観光客に人気です。



2019年10月25日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11

TEL & FAX: 045-500-9151

E-mail: hands-mindanao@nifty.com

http://hands-mindanao.a.la9.jp/

郵便振替口座 00210-5-72693

(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

ビラーン人の、ビラーン人によるボルール村農村開発事業

— 教育を受けた青年のリーダーシップと行政の後押しに期待 —

「ボルールのモデル農場事業に、PFPが関与するのであれば、HANDSの資金支援も辞退したい」

今年度予算に事業費9万円を計上したことを伝えた5月初め、技術指導担当のボニファシオが、PFP(先住民族のパートナー)には関わってほしくないという住民組織(略称 TBA)の意思を伝えてきました。

サウスコタバト州都コロナダル市山岳部にある事業地域バランガイ・アサンプション(ビラーンの名称はボルール)では、数年前にもボニファシオを含む元奨学生3人が住民組織(略称 BOSDA)を作り、小規模アグロフォレストリー事業を実施したことがあります。

ゴム苗木の定植や傾斜地農法研修はほぼ予定通り実施できましたが、会計担当の不適切な資金管理から組織の維持が難しくなり、私たちはPFPに事態収拾を依頼しました。最終的にBOSDAは解散し、2017年度に再度ボルールで実施したアグロフォレストリー事業では、当初からPFPに事業管理を委託しました。

PFPは私たちの教育や環境保全事業のパートナーとして、2002年以降協働してきた現地NGOです。10年ほど前にアメリカからの支援が終了してからは、当団体事業の現地管理を担うことで、活動理念「先住民族のために」を実現してきました。しかし、退職者が出ても補充はなく、常勤は農業専門家ニックさんと財務担当ビビアンさんだけになり、ツピ町やボルールの事業では、ビラーン人の農業技術者ボニファシオが臨時に雇用されました。

ボニファシオは山深い地域での傾斜地農法推進の情熱をPFPと共有し、事業のノウハウも学びましたが、度重なる手当の遅配や未払い等について自らは請求できないなど、非先住民族の財務担当者との距離感や不信感を感じていたようです。また、それがボルールの仲間にも伝わったものと思われます。

「PFPが関与するならHANDSも」に、住民の強い意志を感じて、PFPには今回は関与不要を伝えました。

その後ボニファシオからは、モデル農場の経過報告(関連記事 P3)とともに、コロナダル市の先住民族事業の契約ベース職員になったという朗報も届きました。

コロナダル市の地名の語源はビラーン語に由来し、「コロ」は「コゴン草」、「ナダル」は「平原」を意味しています。19世紀以前のコロナダル市周辺にはビラーン民族の畑が広がり、山岳部は狩猟・採集の場であったといわれています。しかし、アメリカによる入植政策以降ビサヤ人などが急増し、ビラーン民族は文化的少数派になるとともに、生活拠点は山岳部に後退しました。

コロナダル市は観光資源でもあるチボリやビラーンの伝統文化保存継承には熱心で、ボルールにもビラーン文化保存施設があります。

数年前、訪問時に聞いた話では、市職員にビラーン人はいませんでした。今年4月の選挙で就任した新市長エリオルドさんの下では、すでに何人ものビラーン人が職員になっていて、ボニファシオはその一人に加わられたことで、市内のビラーン地域での調査や組織化に貢献できることを嬉しく思っているということです。

— 「チボリ人のチボリ人による」は25年前に実現 —

私たちのパートナーの一つSCM学校法人は、「チボリ国際里親の会」による「チボリの教育はチボリ人で」の選択により、今はレイクセブ町最大の教育機関になりました。このSCMも1960年代初めの創立から30年余りは、SCM文化財団として、アメリカ人神父とビサヤ人の教師、農業専門家、里親担当などが管理運営していました。

内紛を乗り越えた1994年以降、現ガンダム学長以下チボリ人が運営し民族文化学習が正課となっています。

日本市民によるミンダナオの教育支援は、「チボリ国際里親の会」発足から数えると40年になります。今後も先住民族の社会的経済的ハンディ解消に貢献し、自信と能力を身に付けた青年たちが、ミンダナオの多民族多文化共生、平和構築に働くことを願っています。(山崎)